

令和3年度「Kii-Plus 地域学生プロジェクト」実施報告書

活動テーマ	南方熊楠の足跡をたどって ～熊楠が愛した神の島～		
キャッチ（タイトル）	南方熊楠の足跡をたどって ～熊楠が愛した神の島～		
活動グループ	氏名	所属・学年	
	（グループ代表） 楠見樹梨	教育学部 研究科	2年
	（グループメンバー） 高垣真由子	教育学部 研究科	2年
	宿院祐里	教育学部 研究科	2年
	末廣千翔	教育学部 研究科	2年
	橋本菜々子	教育学部 研究科	1年
		学部 研究科	年
協力教員	氏名	学部	職名
	豊田充崇	教育学部	教授
活動フィールドまたは 連携・協力する地域等	和歌山県田辺市、和歌山県田辺市立新庄第二小学校		
グループ名（※1）	WANT TO		
グループの公式 SNS/HP など URL （※1）			

活動概要	<p>南方熊楠は昭和の時代にエコロジーを説いた偉人であり、この考え方は今日の SDGs に紐付けて考えることができる。それを実際に南方熊楠が守った神島での実地調査、ゴミ拾いなどの環境整備を通じて児童の中に地元から持続可能な社会を気づいていくことの大切さ、また環境問題が身近に迫っているという認識を考えるきっかけにしたいとの思いで、活動の計画に至った。活動では、和歌山県田辺市立新庄第二小学校の協力のもと、6年生と一緒にフィールドワークを数回行った。神島上陸の際には和歌山大学から2名の教授をお招きし、小学生と共に現地の生き物の観察も行った。また、神島上陸後も、オンラインを活用して和歌山大学と新庄第二小学校とをつなぎ、意見交流を行った。</p>																								
活動内容	<table border="1" data-bbox="424 741 1444 1442"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>内容</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2021年9月10日午前</td> <td>岡崎裕教授による SDGs の講演</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>2021年9月21日午前</td> <td>新庄第二小学校の6年生と事前学習</td> <td>南方熊楠記念館 南方熊楠記念館周辺の海岸</td> </tr> <tr> <td>2021年9月21日午後</td> <td>大学生のみで現地学習</td> <td>鳥の巣海岸公園 (神島が見える海岸)</td> </tr> <tr> <td>2021年10月6日午前</td> <td>神島上陸 専門家による講演</td> <td>神島 新庄第二小学校</td> </tr> <tr> <td>2021年10月6日午後</td> <td>大学生のみで現地学習</td> <td>南方熊楠顕彰館</td> </tr> <tr> <td>2021年10月21日午後</td> <td>玉井先生の講話</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>2021年10月28日午後</td> <td>新庄第二小学校6年生の発表を見せていただく</td> <td>オンライン</td> </tr> </tbody> </table> <p>活動を始めるにあたり、Zoom を用いて和歌山大学教育学部教職大学院の岡崎裕教授に、『学校と SDGs』というテーマで SDGs についての講演をしていただいた。SDGs が採択された経緯や SDGs の基本的な考え方、コロナ禍をふまえての SDGs の重要性、『OECD ラーニング・コンパス 2030』における SDGs などについて教えていただいた。また、「南方熊楠の考える宇宙はまさにホリスティック（地球を、つながりをもった全体としてとらえる）である。SDGs との関連を考えても面白い。」と今後の活動にもつながる助言をいただいた。</p> <p>活動として、新庄第二小学校の6年生と共に行う事前学習（フィールドワーク）、大学生のみでの現地学習を2回、神島上陸、新庄第二小学校とのオンラインでの交流を2回行った。</p>	日時	内容	場所	2021年9月10日午前	岡崎裕教授による SDGs の講演	オンライン	2021年9月21日午前	新庄第二小学校の6年生と事前学習	南方熊楠記念館 南方熊楠記念館周辺の海岸	2021年9月21日午後	大学生のみで現地学習	鳥の巣海岸公園 (神島が見える海岸)	2021年10月6日午前	神島上陸 専門家による講演	神島 新庄第二小学校	2021年10月6日午後	大学生のみで現地学習	南方熊楠顕彰館	2021年10月21日午後	玉井先生の講話	オンライン	2021年10月28日午後	新庄第二小学校6年生の発表を見せていただく	オンライン
日時	内容	場所																							
2021年9月10日午前	岡崎裕教授による SDGs の講演	オンライン																							
2021年9月21日午前	新庄第二小学校の6年生と事前学習	南方熊楠記念館 南方熊楠記念館周辺の海岸																							
2021年9月21日午後	大学生のみで現地学習	鳥の巣海岸公園 (神島が見える海岸)																							
2021年10月6日午前	神島上陸 専門家による講演	神島 新庄第二小学校																							
2021年10月6日午後	大学生のみで現地学習	南方熊楠顕彰館																							
2021年10月21日午後	玉井先生の講話	オンライン																							
2021年10月28日午後	新庄第二小学校6年生の発表を見せていただく	オンライン																							

新庄第二小学校の児童と共に行ったフィールドワークでは、「南方熊楠記念館」及びその周辺の海岸を訪れた。記念館内では館長のお話を聴いたり展示物を見学して気づいたことを記録したりする活動を行った。周辺の海岸の探索では、土佐先生（南方熊楠顕彰館の職員の方）の案内のもと、自然とふれあう活動を行った。

大学生のみでの現地学習では、「鳥の巣海岸公園」と「南方熊楠顕彰館」を訪れた。「鳥の巣海岸公園」では、その日の天候の都合で鳥の巣海岸の探索はできなかったのだが、鳥の巣海岸公園の中にある平和公園で、洞窟の中の船や戦争についての説明を見学した。「南方熊楠顕彰館」では顕彰館内の展示物の見学及び南方熊楠邸跡地の見学を行った。

神島上陸の活動では、新庄第二小学校で1隻、和歌山大学為替1隻の計2隻の船をチャーターし、神島へ上陸した。活動には新庄第二小学校6年生、新庄第二小学校の教師の方、大学生と大学関係者、土佐先生、大学教授2名（古賀先生、高須先生）が参加した。神島では土佐先生のお話を聴いた後、2つのグループ（土佐先生グループ・陸、古賀先生グループ・海岸）に分かれ、生き物を探索した。その後、燃えるゴミ、燃えないゴミ、プラスチックごみ、びん類などの袋をそれぞれが分担して持ち、分別しながらゴミ拾いを行った。神島から帰ってきた後、新庄第二小学校6年生の教室にて専門家のお話を聴く事後学習を行った。

新庄第二小学校とのオンラインでの交流では、玉井先生（神島で熊楠が行った調査を再現された元高校の先生）の講話を児童と共に聴く活動や、児童の学習成果の発表（鳥の糞害や神島の虫、台風の被害、貝殻、昭和天皇と熊楠というように、班でテーマを決めて発表）を見せていただく活動を行った。

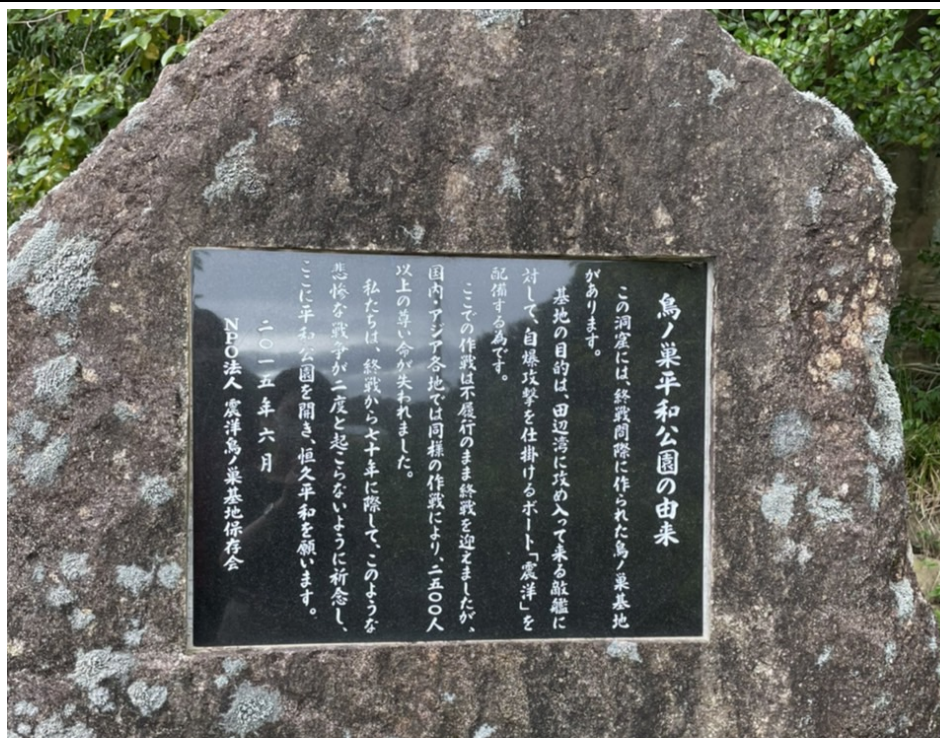
その後、活動を通して学んだことや様々な文献を読んで学んだことをもとに、活動成果報告書レポートの作成やパワーポイントの作成を行った。

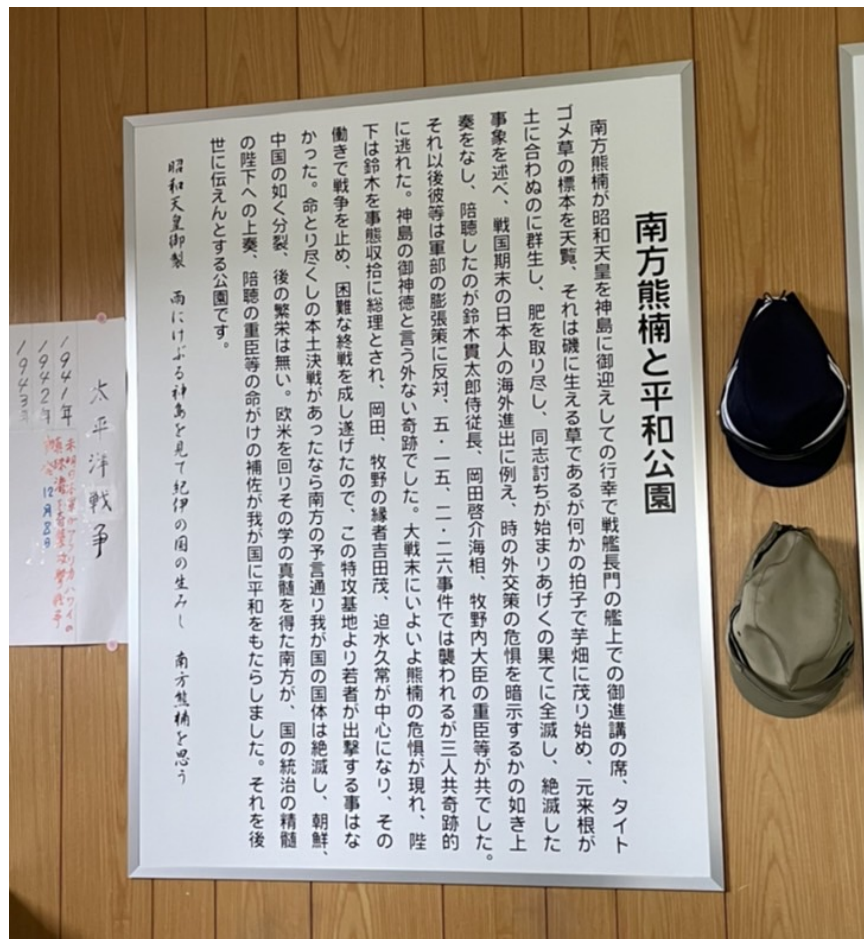
<9月21日>



活動写真 (※2)







<10月6日>









初めての学外の活動で、様々なことを学んだが、これから明るい未来を築いていくための学習として、特に重要だと感じたことを3点あげる。

1. 学外で学ぶこと（フィールドワークの重要性）

今回、新庄第二小学校の児童と共に行う事前学習や大学生のみでの現地学習などでフィールドワークを行う機会は多かったのだが、至る所でその意義を実感した。

例えば、南方熊楠記念館では館長の話や DVD の視聴、南方熊楠の大きな年表が貼ってある壁、南方熊楠の私物の展示の見学などを行うことができ、**視覚、聴覚などあらゆる感覚にはたらきかけてくる情報を得ることができた。**個々の児童が自分の興味関心に応じて自由に見学できるという点で、**記念館や博物館は個々の児童の興味関心を引き立てる要素がたくさんつまっている場所**ともいえると感じた。実際に、見学の際、児童は何度もキョロキョロしたり立ち止まってなかなか動かなかったりと、とても興味を惹きつけられているようであった。スケジュールの都合上、長時間館内にいることができなかったのだが、できる限り児童の自由見学の時間を設けた方が、児童の好奇心を最大限に生かせる活動につなげていけるのではないかと感じた。その他、記念館内には粘菌の模型を見たり顕微鏡で粘菌を観察したりすることができるブースもあった。「粘菌」は普段の生活で馴染みがない分、イメージも湧きにくい。こうして模型や実物の観察をすることを通して、“粘菌の形や色の多様性”や“粘菌の美しさ”を実感でき、より南方熊楠に**共感や親近感を覚えることができる**のではないかと感じた。そしてこのようにして感じた**親近感が、その人物のもっていた課題を“自分事”として考えることができるようになることにもつながる**と感じた。

また、自然を学ぶ目的で鳥の巣海岸を訪れたが平和公園でその地の戦争の歴史など新たな発見をすることができたこと、神島に上陸する目的で船に乗ったがその途中で養殖場のいけすを新たに発見できたことなど、フィールドワークの活動内では目的とは直接関係のない想定外の発見がたくさんあったように感じた。しかし、このような**一見目的とは逸れているような小さな発見が「新たな課題発見」「新たなテーマ発見」のきっかけとなり、学びのサイクルを生んでいくのだ。学びの種をたくさん見つけることができるという点**でもフィールドワークは重要だと感じた。

そして、今回の主となる活動であった「神島への上陸」もとても大きな意味をもつものであったと感じる。神島の大切さや神島の自然が壊されつつある現状は事前学習で学んでいた。しかし、現地でその話を再度聴きその現状を目の当たりにすることでより神島の神聖さを感じることができ、自然を慈しもうとする気持ちが、児童にもそして私達にも芽生えたように感じた。**自らの五感を通して学ぶ情報ほど記憶に残り心にも響く**ということを改めて実感できた。

活動成果（学んだこと、感想等）

2. 専門家・教授の存在

今回の活動では、事前学習の際にも神島への上陸の際にも専門家や教授に協力していただいた。そのことにより、児童はより学びを深めることができたのではないかと感じる。

例えば、南方熊楠記念館周辺の海岸の探索では、土佐先生（南方熊楠顕彰館の職員の方）に協力していただいた。土佐先生は草花や海の生物にとっても詳しく、探索をしながら生物の名前を教えてくださいました。児童も貝殻を集めたり木の枝を拾ったりと自然に親しみながら自由に探索を行っていた。足場が整備されておらず危険な場所も複数あったが、それ自体を児童はとても楽しんでいるようであった。生き物が苦手な児童ははじめ不満げな表情をしていたが、私達や職員が手助けをしながら探索活動を行っていく中で、次第に会話が増え自然に対して自ら触れに行く場面も多く見られるようになった。専門家近くにいることで**“楽しむ様子”“面白そうにしている様子”**を間近で感じることができ、それに影響を受けて**一步踏み出すことがより容易になるのではないかと感じた**。また、そのような過程を通して**「自然のなかに入ってみる」「自然に親しみをもつ」体験を一人でも多くの方がすることが自然守る活動の第一歩なのだ**ということを学ぶことができた。

また、神島での自然の探索活動では、児童が発見した生き物を専門家（教授）に見せに行きそれについて教えていただく形をとった。神島には地元の海岸で見る生き物はもちろん、あまり見かけない生き物も見つけることができたようであった。普段は見つめて触って終わることが多いと思うが、**“生物に詳しい専門家近くにいることで「これは何だろう？」という疑問が次々に湧いてきているように感じられた**。また、専門家に聞いてもその場では詳しく分からなかった生物については、写真を撮っておき、後日教室で調べる活動につなげていた。**自然探索活動で児童自ら学ぼうとする姿勢を引き出すためには、専門家の存在はとても大きいと感じた**。

3. 大学生の紀南での活動の意義

和歌山県の紀南地方には高等教育機関がない。そのため、地元の人々や子ども達にとっては大学生という存在が身近ではないようであった。実際に新庄第二小学校に訪れた際、教師の方々は**「大学生が小学校に来るということは本当に珍しい。来てくれるだけでも、子ども達はとても喜んでいる。」**とおっしゃってくださいました。また、児童との交流の際に、南方熊楠についての講義が和歌山大学にもある（2020年度前期「南方熊楠入門」など）ことを伝えると、子ども達はとても目を丸くして驚いていた。こうして**大学生もその地域の人物について関心をもっていることを伝えることで、より児童は地域の偉人（ここでは南方熊楠）の偉大さを感じるとともに、地元を誇ることができるのかもしれないと感じた**。

実際の活動を通して、私達大学生にとっても初めて学ぶことがたくさんあった。私

達のプロジェクトメンバーは教育学部であるが、大学の講義で紀南について詳しく学べる機会はほとんどない。紀南を取り上げる科目は教養の授業のごく一部であるのが現状であり、大半の授業は学部の専門知識に関するものである。しかし、**これからの地域社会の未来を築いていく一員として、その地域を知っておくことは必要不可欠である。私達はもっと“地域”を視野に入れた学び、“地域”を通じた人々との交流を展開していくべき**ではないのだろうか。そのような課題意識が私達の中に芽生えた。和歌山大学と紀南は距離が遠く、頻繁に行き来し交流することはたしかに難しい。しかし、今回のプロジェクトで行ったように ICT 設備を用いて会議や意見交換を行ったり長期休みを用いて共に活動したりすることにより、交流は可能である。今回の気づきを生かし、更なる交流の深め方を模索していけたらと感じた。

以上の 3 点の学びを得られたことは、今後一人ひとりが社会に出て地域社会の活性化や明るい未来の形成に向けて活動していくなかで、必ず役に立つものであると感じる。この学びを私達の中だけでとどめるのではなく、より多くの人々と共有したいと考え、この活動成果をもとに別途成果報告書『南方熊楠の足跡をたどって見えてきたもの～南方熊楠を学校における総合的な学習の時間で取り上げることへの対案～』をまとめた。この学びが一人でも多くの人に影響を与え、その一人ひとりの変容が、地域活性化を促進する大きな力になっていけばと考える。

※1 必須ではありません。ある場合のみ記入してください。

※2 別途画像ファイルも合わせて提出してください。